

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

2012年度が始まって1ヶ月が経過しました。人事異動も終わり、様々なところで新体制が動き出します。5月1日より北海道教区震災支援室も新体制に移行し、室長に飯野司祭をお迎えすることになりました。今後も教区内、および釜石での活動を継続し、みなさまに様々な情報をお届けしてまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。

【支援室長を飯野司祭にバトンタッチするにあたって】

司祭ペテロ大町信也

この度、北海道教区の震災支援室長の働きを、飯野正行司祭にバトンタッチする事になりました。私は、昨年の3月11日の地震発生に伴い急遽この職に就きましたが、この間、手探りの状態の中で色々と不手際があったにも関わらず、北海道教区の皆さんが、心を一つにして祈りを捧げ、ボランティアに参加し、心を込めて物資を送り、また募金をもってその働きをお支え下さった事に心から感謝申し上げます。

とりわけ、継続的に教役者を釜石神愛教会・同幼児学園への派遣が、教会間の協力と留守教会信徒の皆様の並々なご苦勞によって支えられた事を覚え感謝申し上げます。決してきれいな事では片づけられない、不便や葛藤を、皆さんが引き受けて下さる事なしに、この粘り強い支援は成り立たなかったのではないかと思います。

その意味で、直接的な被災者と「共に歩く」という困難は、支援に携わる人々が「共に歩く」という困難によって支えられているという事を思います。今後、更に一年間にわたり支援の働きが継続されます。「息の長い支援」という、より困難な課題を、私達は、飯野室長と共に担って行く事となります。今まで皆さんが担って下さった困難と葛藤、これから担って下さる困難と葛藤が、神様から祝福されますよう心から祈っています。

私にとりましても、この一年は、貴重な出会いと経験をもたらすものでしたが、きっと北海道教区にとりましても、これからの「宣教」にとって、かけがえのない経験となるものと信じています。

支援室ニュースが、いつもその冒頭に掲げています、3つのスローガンが、私達の支援という宣教（ミッション）の、①姿勢と、②方向と、③根拠である事を、いつも覚えて読み返して下さい。今後私は、日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こうプロジェクト」の運営委員長として管区全体の働きに、より軸足を置く事になりますが、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【新室長より】

支援室長 司祭 飯野正行

5月1日付で震災支援室長に任命されました。神の恵みと皆様の愛に支えられてお仕えして参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。支援室長としてこの活動の詳細を把握する事が急務である事は勿論ですが、それ以外の事としては、3つの事を大切に行きたいと考えております。まず第1は、被災された方々や支援活動の現況のご報告を出来るだけ早く皆様にお伝えしたい（報告・連絡を密にしたい）ということです。第2は、イエス様に支えられて歩んで来た者としての使命のようなものが私たちにはきっとあると思いますので、これらを共に確認しつつ支援活動に当たりたいと願っています。第3は、支援活動に当たる方々の体調やメンタルな部分の事にも心を注いで行きたいと思っています。皆様の祈りとご協力をお願いいたします。

【GFS プログラム】

4月23日～26日（現地）に東京教区GFSとの協働プログラムが釜石ベースで行われ、北海道教区GFSからも4名（植松三千代さん・向井哲子さん・溝尾澄子さん・山岡みゆきさん）が参加されました。足湯あり、仮設の訪問ありの盛りだくさんのプログラムになったようです。今回のプログラム参加者の中から、昨年9月に長期滞在された山岡みゆきさんより原稿をいただいておりますので掲載します。

再び釜石を訪ねて

札幌キリスト教会 山岡みゆき

約7ヶ月ぶりに訪れた釜石は、少し風景が違っていた。津波に壊された建物の幾つかは撤去されて更地となり、センターの近くには仮設の呑み屋横町ができていた。至る所で桜が咲き、人々は震災当時のことを語るようになったが、その反対に行政に対する不満を露にし、ボランティアに来る人が減ったことを嘆いていた。

座布団やジャガイモを持って仮設を戸別訪問したが、ここでも笑顔で私たちを受け入れてくれた方々もいた一方で、絆を結ぶことを怖がるかのように拒絶された方々もいた。触れることを許さないエネルギーは強烈で、私は何もアプローチできなかった。陰陽が明確化してきた釜石の町……。

二度目の視察となった陸前高田。車窓から見える桜は綺麗だったが、私はとても憂鬱だった。初めて視察に行く方々が、今は桜の群れに歓声を上げていても、あの風景を見たら凍りついてしまうことが予想できたから。そして案の定、車が陸前高田に入った途端、誰もが無言になった。そうやって当たり前の風景が、まだそこには広

がっていた。その夜の分かち合いは、皆涙だった。表現できない感情が各々の心の中にあったのだ。

朝早く、常連の M さんが自転車でやって来る。センターが開く 1 時間も前だ。センター前のベンチに腰掛け、一服しながら彼と様々な話をした。大好きな荻野目洋子のこと、釜石の町のこと、そして「去年の桜は覚えていない…」と彼は呟いた。被災した多くの人が、彼と同じだと聞く。

短期間で濃密だった今回の支援活動。滞在 3 日目の聖餐式で加藤主教様が語られた、「主イエスが葬られた墓の石が取りのけられたように、被災地を覆う重たい石もいつか取りのけられること」を祈りつつ、釜石を後にした。

【訂正のお願い】

北海道教区・東日本震災支援中間報告（2012 年 4 月 8 日発行）について、下記のように訂正させていただきます。

《3 頁下から 11 行目》 大館聖パウロ教会、函館聖ヨハネ教会、帯広聖公会などで作られた座布団

→ 大館聖パウロ教会ならびに、教区内諸教会の有志の婦人を始め、多くの方々より寄せられた座布団

※表記にある教会の以外の信徒の方々や、教会の枠を超えて協力いただいた方々が

数多くこの座布団プロジェクトに参加下さったので、上記のように改めます。

《4 頁下から 8 行目》 吉野司祭 → 吉野執事

【釜石での働き】

※ 震災支援室ブログ(海老原さん・向井さん発信)より抜粋

4 月 26 日

本日は北海道 GFS のみなさんの最終日。先ほど午後 3 時半に北海道に向けて帰って行きました。それにしても、前回もそうでしたが、よく働き、よく喋る人たちです。東京 GFS と北海道 GFS のコラボレーションは最強です。ともかくお疲れさまでした。

午前中は北海道組（植松さん・向井哲さん・溝尾さん・山岡さん）と私で大畑の仮設で帯広の方たちがお送りくださったジャガイモをお届けしてきました。みなさんよくおしゃべりになる特技を存分に生かして、ゆっくりお話をたくさんしていました。なかには犬とおしゃべりしていた方も。大畑の仮設には大きな笑い声が響きわたっていました。

午後はセンターの大掃除など。センターはきれいに整理整頓されました。感謝。山岡さんは私のお手伝いで会計報告の入力作業をしてくださいました。これでようやく会計報告が終わりました。大変遅くなってしまったことを関係各所にお詫びいたします。

【チラシ印刷のお手伝いのお願い】

釜石支援センターでは、仮設住宅を訪問する際（特に初めての時など）に、支援センターのチラシを作ってお配りしています。きれいなチラシです。支援センターで印刷して使っていたのですが、大量に必要になるときもあり、また忙しさのあまり、事務作業がどうしても後回しになってしまいます。そこで、そんなに大量でなくてもかまいませんので、チラシを印刷して、釜石へ発送して下さる方を募集いたします。チラシは WORD で作成した A4 のものです（カラー）。ご自宅のプリンターで印刷し、支援センターに適宜発送していただくと幸いです。お手伝いいただける方は、ファイルをメールにて送りますので支援室広報担当・吉野暁生執事まで連絡をお願いします。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ <http://nssk.org/walk> で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。
<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」

☎0193-55-4524、090-6999-7840

Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp